

さあ、でかけよう タイムトラベルへ

8

EIGHT

古代群馬の中心地 ここから群馬が始まつた

はるなさんとうなんろくこふん

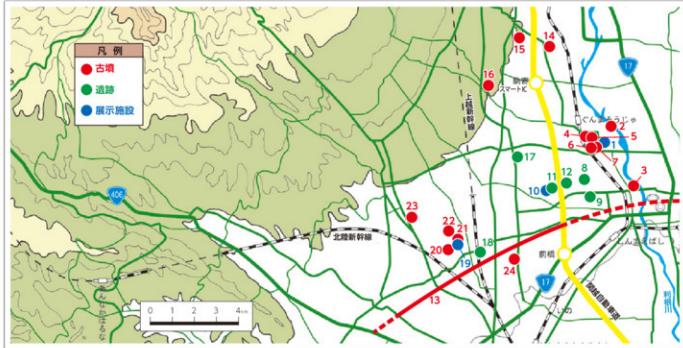
榛名山東南麓の古墳

Ancient Burial Mounds In The Southeast Foothills Of Mt.Haruna



ここから群馬が始まった

榛名山は、群馬県のほぼ中央に位置しカルデラ湖を持つ複式火山で、かつては標高200m程のコニード式火山(富士山型)でした。赤城山、妙義山とともに上毛三山の一つに数えられ、日本二百名山に選ばれています。中央のカルデラの周囲を1200~1500mの峰々が三重に取り囲み、その外側に広く緩やかな裾野がある榛名山東南麓の古墳分布図一覧表



No.	名前・形状・相場	時期	所在地
1	鶴社山貴賀能	初期	前橋市鶴社山1584-1
2	運良山古墳 前方後円墳88m	中期	前橋市鶴社山鶴社山1410ほか
3	王山古墳 前方後円墳76m	後期	前橋市大源田一丁目6-1
4	鶴社・王子古墳 前方後円墳90m	後期	前橋市鶴社山1584-5
5	愛宕山古墳 方墳56m	終末期	前橋市鶴社山1762ほか
6	宝鏡山古墳 方墳66m	終末期	前橋市鶴社山鶴社山1606
7	都八山古墳 方墳44m	終末期	前橋市鶴社山鶴社山1587
8	王山庚房	白鳳	前橋市鶴社山鶴社山2408
9	上野国附	奈良	前橋市元鶴社山2406ほか
10	ガイダンス施設 上野国寺寶館	高崎市引間町247ほか	
11	郡分僧寺	奈良	前橋市元鶴社山小見1650ほか
12	国分尼寺	奈良	前橋市元鶴社山2651-10ほか

広がっています。

榛名山は、6世紀初頭から前半にかけて2度の大噴火を起こしましたが、人々は大災害を復旧しながら力強く生活を営んできました。その力は古墳から寺院へ、やがては国府や国分寺に受け継がれ古代群馬の中心地となりました。

はるなさんとうなんろく こふんうつか 榛名山東南麓の古墳の移り変わり

榛名山東南麓には古墳時代中期後半から
末期にかけて上野毛を代表する高崎市の休渡
田古墳群、前橋市の総社古墳群が造られます。
しかし、この地域の古墳時代は順調であったわけではありません。6世紀に2度にわたり榛名山
の大噴火の被害を受けました。

榛名山周辺では、この大災害の前後から朝鮮半島の渡来系文化を積極的に受け入れ、馬

の生産を行いました

代表される遺跡として高崎市劍崎長野西遺跡（しもさざなみいわかじきひがし）や下里見宮谷戸遺跡、渋川市吹屋 穂 屋 遺 蹟をあげることができます。さらに日本のポンペイとも言われた渋川市黒井峯遺跡、臼井北中道遺跡や、国内で初めて 甲 を着けた人骨が見つかった金井東裏遺跡、さらに近接する金井下新田遺跡では飼育されていた馬の発見がありました。

群馬県中央部の古墳変遷図(雄山閣 全国古墳編年集成より)

ようこそ! 前橋市総社歴史資料館へ

総社歴史資料館では、総社古墳群・山王廃寺の展示、天狗岩用水をわかりやすく紹介しています。埴輪や瓦、土器のほか山王廃寺の塑像などの展示、天狗岩用水開削を復元したジオラマ模型、山王廃寺建物の復元3D映像、スマホやタブレットで見られる画像アプリもあります。また、天狗岩用水は市内の小学校の社会科見学の

コースにもなっています。学習室では土器・埴輪・鏡づくりなどの体験学習や各種講座も開催されます。芝生広場には市民ボランティアの皆さんのがついたウマやシカ、イヌなどの動物埴輪が展示してあります。

どうぞ、総社古墳群や山王廃寺の見学はここからスタートしてください。



山王廃寺出土の塑像(高崎市所蔵)



天狗岩用水開削のジオラマ



芝生広場の動物埴輪



総社歴史資料館

遠見山古墳・王山古墳

5世紀後半に造られた遠見山古墳から総社古墳群の歴史が始まります。遠見山古墳は、3段の墳丘で全長88mの前方後円墳で、周堀には6世紀初頭に榛名山から噴出した火山灰が堆積していました。平成29年から古墳の発掘調査が開始され、総社古墳群の謎が解明される時がきました。

王山古墳は、6世紀初頭の前方後円墳で、横



南西からみた遠見山古墳



南からみた王山古墳

総社古墳群
そうじやふたごやまこふん
総社二子山古墳

『日本書紀』に崇神天皇は長男の豐城入彦命が文武に優れていたので東国を治めさせるために派遣したという記載があります。総社二子山古墳は、豊城入彦命の墓として1875(明治8)年に陵墓の治定を受け、墓掌、墓丁といった墓を護る役職が置かれました。しかし、治定はすぐに解除となってしまいました。当時の県知事、樋口素彦は次の候補として大室

公園にある前二子古墳を宮内省に申請しましたが、治定されませんでした。

古墳には、横穴式石室が2つあり、後円部の石室が先に造られたと考えられ、1819(文政2)年には、前方部の石室から頭椎大刀が出土した記録が残されています。本物は残っていませんが、前橋市立図書館に残された図面から再現された大刀が総社歴史資料館に展示しています。



後円部南東からみた総社二子山古墳



豊城入彦命の碑拓本



南からみた総社二子山古墳



陵墓治定時に置かれた2枚の蓋守着板(明治8年)

愛宕山古墳・宝塔山古墳・蛇穴山古墳
あたごやまこふん・ほうとうざんこふん・じやけつざんこふん

群馬を代表する大型の方墳3基が、まとめて築かれました。7世紀前半の愛宕山、中頃の宝塔山、後半の蛇穴山古墳で、北から南へ連続して造られます。3基とも葺石を有し、周堀を含めた大きさは90m、96m、82mの大きさです。なお、蛇穴山古墳の周堀は2重で中堤に葺石がありました。

愛宕山古墳の横穴式石室は、部分的に加工された巨大な自然石で構築され、玄室長さ7.1mです。石室内には凝灰岩製の石棺が安置されています。この家形石棺は中央の関西地方でも有力者の古墳に採用され、東日本でも宝塔山古墳の家形石棺を含めて数例と貴重です。

宝塔山古墳の墳丘は3段築成で、南に開口する横穴式石室には截石切組積の手法が採用され、壁・天井には塗喰の痕跡があります。石室全長は12mで、葬道・前室・玄室からなり、玄室には脚部に仏教美術の格狭間が彫り込まれた輝石安山岩製の家形石棺が安置されています。石室壁面の石材加工方法や造る技術、漆喰の使用は、中央の関西地方の大王の古墳に用いる技術と同じものです。

蛇穴山古墳の周囲には二重の堀と葺石に覆われた中堤があります。総社古墳群の中で最後に造られた古墳であると同時に、県内でも最後の大型古墳として位置付けられます。南側には截石切組積の横穴式石室があり、内面には塗喰の痕跡が観察できます。左右と奥の壁、天井はそれぞれ1枚の巨石で構築されています。石室内には棺を安置する棺台があります。



北西からみた愛宕山古墳



西からみた宝塔山古墳



佛教美術の影響を受けている宝塔山古墳の家形石棺



南からみた蛇穴山古墳

さん の う は い じ 山王廃寺

山王廃寺は、7世紀後半に創建された東日本では最古級の寺院です。1921(大正10)年、総社町の日枝神社境内で塔の心柱の基礎が偶然発見され、寺院跡とわかりました。屋根の両端を飾った石製鷲尾、心柱の根元を飾った根巻石、緑釉陶器、塑像、金銅製品といった寺院関連の貴重な遺物が発見されています。特に阿修羅像を含む3000点を超える塑像群は法隆寺

の塑像に匹敵するものです。発掘調査によって伽藍は中門と講堂を一辺80mの回廊で方形に結び、その内部の西に金堂、東に五重塔を配する法起寺式の伽藍様式であることがわかりました。さらに、「放光寺」の文字が刻まれた瓦が出土したこと、ユネスコ世界記憶遺産の一つの山上碑の碑文にある「放光寺」が、山王廃寺であることが明らかになっています。



山王廃寺想定復元図



山王廃寺の塑像（侍者像 左・高崎市蔵、右・前橋市蔵）



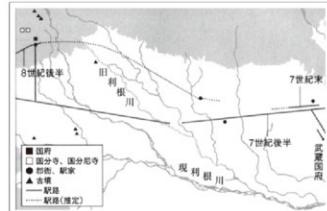
塔心礎のある日枝神社

こ う づ け こ く ふ 上野国府

上野国府は、古くから元総社町付近に存在することが推定されてきました。近年の調査で、総社神社の東側を流れる牛池川から大殿に使った人形や「國厨」や「曹司」と書かれた墨書き土器がたくさんみつかっています。また、関越自動車道路の調査で鳥羽町から国府の神社跡が発見されたことから、総社神社から関越自動車道の一帯が国府の範囲であることがおぼろげ

ながらわかつてきました。

国府は、奈良・平安時代の律令制下における地方統制の中心として設置された役所であり、まさに政治、経済、交易等を集約する唯一の地方拠点でもありました。国府と都は幅の広い官道で結ばれていました。県内を通る東山道駿駅路は3つ。その1つである延喜式道路の「国府ルート」は8世紀後半に開通した一番新しい道路です。



群馬県内の東山道駿駅路（近江俊秀2013より）



群馬高專北側の8世紀後半の東山道駿駅路地割（右側）



7世紀後半の東山道駿駅路（太田市教育委員会提供）



国府の建物が眠る元総社小学校校庭



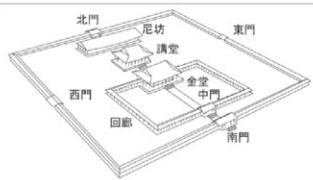
元総社公民館駐車場の地下に保存されている大型建物跡

こうずけこくぶんじ 上野国分寺

国分寺・国分尼寺は、国を護るために聖武天皇によって建てられた二つの寺院です。上野国のように所在地が両方ともはっきり見つかっているのは、全国でもめずらしいです。正式には国分僧寺は「金光明最勝王經」、「妙法蓮華經」が納められ、役人から命じられた僧侶が派遣されました。国分僧寺には男性の僧20人、国分尼寺には女性の僧(尼)10人が勤めしていました。国分寺は、地方

における仏教文化発信の中心地でした。

上野国分僧寺は一辺約230mの広さを粘土で突き固めた築地盤で囲んでいます。南の通路から南門を抜けると中門がありました。基壇が復元された七重塔は回廊の外にありました。約60mもの高さを誇る七重塔は、全国最大級の塔です。塔や講堂・金堂の化粧石は棟名山噴出の角閃石安山岩を用いています。中門をぐぐると金堂、続いて講堂がありました。現在、講堂基壇が復元されています。建物の配置は国分尼寺も同じですが、塔がありません。



国分寺復元図(現地説明会パンフレットより)



南からみた国分寺



七重塔模型



国分寺復元図(遠江国分寺・碧田市教育委員会提供)

しせつ こうずけこくぶんじかん ガイダンス施設 上野国分寺館

国分僧寺の南西にあるガイダンス施設「上野国分寺館」は八角形の洒落た建物です。館内にはビデオ放映や20分の1で復元された七重塔の模型、文字瓦、塑像などが展示されています。

国分尼寺は、関越自動車道を挟んで国分僧寺の東側500mほどにあり、約160mの広さです。2016(平成28)年度から高崎市教育委員会

による発掘調査が始まっており、これまでにたくさんの成果があり、今後の史跡整備が期待されます。

毎年、秋には上野国分寺跡で、奈良時代のさらびやかな宮廷衣装をまとった行列や、雅楽の演奏会など、古代の天平文化にふれる「上野国分寺まつり」が高崎市府公民館を中心に開催されています。



ガイダンス施設上野国分寺館



国分僧寺七重塔の基壇



きらびやかな行列の上野国分寺まつり(高崎市府公民館提供)



復元された国分僧寺の築地壇

みつやこふんみなみしこふんぐんたかつかこふん 三津屋古墳・南下古墳群・高塚古墳



南からみた三津屋古墳の石室入り口

三津屋古墳は、7世紀後半に築かれた一辺9mの八角形墳です。墳丘は2段で葺石・周堀をもち、南側に入口を持つ横穴式石室です。八角形墳は全国的にみても非常に珍しいものです。

南下古墳群は、6世紀後半から7世紀末にかけて築かれた古墳群で、かつては100基以上が存在していました。残された9基の円墳のうち5基の石室が開口し自然石や截石で作られています。埋葬施設はいずれも横穴式石室です。A号古墳とE号古墳は榛名山が噴火のときに噴出した軽石を四角く削って組み合わせ、A号古墳はその上に白い漆喰を塗って仕上げたものです。またこのA号とE号古墳は、石室構築時に引かれた作業線の赤線が壁面に残っています。

高塚古墳は、群馬県林業試験場の敷地内にある全長60mの前方後円墳です。6世紀中頃に造られたと考えられ、墳丘は2段で葺石・埴輪をもちます。埋葬施設は後円部南側に入口を持つ横穴式石室です。群馬大学の発掘調査により豊富な形象埴輪が出土し、このうち武人埴輪が県立歴史博物館に展示されています。



南下古墳群(南からみた南下E号古墳)



南西からみた高塚古墳

しもししづやこふんかみこばないなりやまこふん 下芝谷ツ古墳・上小塙稻荷山古墳

下芝谷ツ古墳は、一辺20mの方墳で2段構造になっており、6世紀初頭の築造と考えられています。上段は石だけで造られていて、朝鮮半島北部にルーツをもつ積石塚と呼ばれる墓と同じ構造になっています。横穴式石室の内部には豊富な副葬品があり、なかでも金銅製の飾りはガラス玉や透かし彫りで飾られた素晴らしいものです。同じ、旧箕郷町(現高崎市)には太子塚古墳もあります。すでに墳丘はなくなつた古墳ですが素晴らしい埴輪がたくさんみつか

ました。かみつけの里博物館の企画展示でお目にかかる機会があります。期待してください。

上小塙稻荷山古墳は、烏子稻荷神社の社殿が古墳の上に建てられています。社殿の裏に、大きな石で築かれた石室があります。古墳は直径50mの円墳で6世紀前半に造られたと推定されます。北に開口する石室には隣接して東山道駿路が通っています。また、社宝として須恵器類が保管されています。



東からみた下芝谷ツ古墳



南からみた上小塙稻荷山古墳



下芝谷ツ古墳の復元された飾り(かみつけの里博物館提供)



太子塚古墳の盾持人埴輪

保渡田古墳群とかみつけの里博物館

保渡田古墳群は100mクラスの大型前方後円墳3基で構成されます。古墳は南から、井出二子山、八幡塚、薬師塚と呼ばれます。3基は5世紀後半から6世紀の初頭にかけて南から北へ連続して造られました。墳丘は3段築成で葺石、周堀が二重に巡ります。井出二子山と八幡塚には堤に円形の中島があります。円筒埴輪は墳丘、中島、中堤に配置されました。形象埴輪群は堤に並んでいました。凝灰岩で造られた大型の舟形石棺が後円部にあり、王が葬られました。



保渡田八幡塚古墳 王の儀式



かみつけの里博物館



保渡田八幡塚古墳

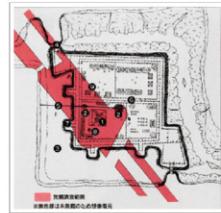
み つ で ら い ち い せ き さ き た や つ い せ き 三ツ寺I遺跡と北谷遺跡

三ツ寺I遺跡は上越新幹線建設の発掘調査で発見されました。全国で初めて古墳時代の豪族居館跡が発見されたためこのニュースは全国津々浦々まで報道されました。まさに古墳に葬られた王様が生活をしていた場所が発見されたからです。この館は保渡田古墳群の豪族の館で、86m四方の敷地の周囲に水堀をめぐらせ、その内側には、古墳の葺石のように川原石の石垣が築かれていました。区画は三重の柵で囲まれ、さらに敷地内を南北に分ける柵がありました。南側の区画は、メインの建物や、水に関する儀式の空間が発見されました。

北谷遺跡も三ツ寺I遺跡とよく似た豪族の館です。北谷遺跡の豪族は近接する総社古墳群や高塚古墳と関連することが想定されます。



北西からみた北谷遺跡



三ツ寺I遺跡の復元図
(かみつけの里博物館図録より)



南からみた三ツ寺I遺跡

てんじしせつ あんない
展示施設のご案内



No	名称	所在地	電話	開館時間	休館日
①	渋川市北橋歴史資料館	377-0062 渋川市北橋町真壁246-1	0279-52-4094	9:00~17:00	月・火曜日(祝日は開館)、祝日の翌日、年末年始
②	群馬県埋蔵文化財調査センター 発掘情報館	377-8555 渋川市北橋町下箱田784-2	0279-52-2513	9:00~17:00	土曜日・祝日、年末年始
③	前橋市総社歴史資料館	371-0852 前橋市総社町総社1584-1	027-212-2558	9:00~16:00	月曜日、祝日の翌日、年末年始
④	前橋市文化財保護課総社ギャラリー	371-0853 前橋市総社町3-11-4	027-280-6511	9:00~17:00	土曜日・祝日、年末年始
⑤	(公財)相川考古館	372-0046 伊勢崎市三光町6-10	0270-25-0082	9:00~16:30	月曜日、年末年始
⑥	大室はにわ館	379-2104 前橋市西大室町2510	027-268-0439	9:00~16:00	4~11月…月~水、祝日開館 12~3月…月~金、祝日開館 年末年始
⑦	前橋市柏川歴史民俗資料館	371-0204 前橋市柏川町膳48-1	027-230-6388	10:00~16:00	月・火曜日(祝日は開館)、年末年始
⑧	ガイダンス施設・上野国分寺館	370-3517 高崎市引間町250-1	027-372-6767	9:30~16:30	年末年始
⑨	かみつけの里博物館	370-3534 高崎市井出町1514	027-373-8880	9:30~17:00	火曜日、祝日の翌日、年末年始
⑩	高崎市観音塚考古資料館	370-0884 高崎市八幡町800-144	027-343-2256	9:00~16:00	月曜日、祝日の翌日、年末年始

●参考文献●

堀博友の1994 古墳めぐりハンドブック

群馬県 1995 群馬県の史跡 古墳編

かみつけの里博物館 1999 よみがえる5世紀の世界

みやま文庫2010 群馬の古墳を歩く

近江俊秀 2013 古代道路の謎 祥伝社新書

群馬県教育委員会 2017 ぐんま古墳探訪

表紙:フィギア(天狗岩用水ジオラマより)・三ツ寺型高杯(遠見山古墳)

古代群馬の中心地
ここから群馬が始まった

榛名山東南麓の古墳

平成29年11月6日

発行:前橋市教育委員会事務局文化財保護課

〒371-0853 群馬県前橋市総社町三丁目11-4

電話 ● 027-280-6511 Eメール ● bunkazai@city.maebashishi.gunma.jp